

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) ■■様賃貸事務所 新築工事	階数	地上4F
建設地	さいたま市南区白幡5丁目1497番2、1497番3	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、法22条区域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年7月8日
敷地面積	1,626 m <sup>2</sup>	作成者	大和ハウス工業株式会社埼玉
建築面積	746 m <sup>2</sup>	確認日	2021年7月12日
延床面積	2,273 m <sup>2</sup>	確認者	大和ハウス工業株式会社埼玉支社流通一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 59%  
 ③上記+②以外の 59%  
 ④上記+ 59%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.9

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 音環境、温熱環境、心理性・快適性、維持管理、まちなみ・景観、地域性、快適性の向上、自然エネルギーの利用、水資源保護、非再生性資源の使用量削減などを中心に配慮がなされた計画である。	<b>その他</b> 節水器具の採用 LED照明器具の採用 複層ガラスの採用	
<b>Q1 室内環境</b> 開口部遮音性能T-2以上、室内に吸音材を二面以上使用している。化学汚染物質においては全面的にF☆☆☆☆を使用している。	<b>Q2 サービス性能</b> 広さ景観においては天井高さ、事務室2.7m以上、物販店舗3.3m以上確保している。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 高さ、壁面位置や形状、色彩を周辺の風景にバランスよく調和させ、まちなみ・景観、地域性への配慮を行った。
<b>LR1 エネルギー</b> [BEI][BEIm]=0.50以下、建物外皮の熱負荷抑制を中心に配慮された計画である。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 水資源保護においては節水型水栓器具、節水型便器を使用した。非再生性資源の使用量削減においてはリサイクル材を3種以上用いている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 駐輪場の確保、駐車場の確保によって地域環境への配慮、周辺環境への配慮の取組を行った。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
 (仮称) 様賃貸事務所 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.7</b>	0.15			<b>3.7</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40			
1.2 遮音						<b>4.4</b>	0.40			
1 開口部遮音性能		T-2以上を採用。				<b>5.0</b>	0.70			
2 界壁遮音性能						<b>3.0</b>	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音		室内に吸音材を2面以上使用している。				<b>4.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.0</b>	0.35			<b>3.0</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50			
1 室温						<b>3.0</b>	0.41			
2 外皮性能						<b>3.0</b>	0.23			
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	0.36			
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	0.20			
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.6</b>	0.25			<b>2.6</b>
3.1 昼光利用						<b>2.1</b>	0.35			
1 昼光率						<b>1.0</b>	0.45			
2 方位別開口										
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.55			
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.22			
1 昼光制御						<b>3.0</b>	1.00			
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.11			
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.31			
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.7</b>	0.25			<b>3.7</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質		全的にF☆☆☆☆建材を使用している。				<b>4.0</b>	1.00			
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.30			
1 換気量						<b>3.0</b>	0.38			
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	0.25			
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.38			
4.3 運用管理						<b>4.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>3.0</b>	0.50			
2 喫煙の制御		全館禁煙で運営する。				<b>5.0</b>	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>			<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.1</b>	0.40			<b>3.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40			
1 広さ・収納性						<b>3.0</b>	0.25			
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	0.25			
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	0.50			
1.2 心理性・快適性						<b>3.3</b>	0.30			
1 広さ感・景観		天井高 事務室2.7m以上、店舗3.3m以上				<b>4.0</b>	0.33			
2 リフレッシュスペース						<b>3.0</b>	0.33			
3 内装計画						<b>3.0</b>	0.33			
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	0.50			
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.9</b>	0.30			<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80			
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.0</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20			
2.4 信頼性						<b>2.6</b>	0.20			
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20			
2 給排水・衛生設備						<b>2.0</b>	0.20			
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20			
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20			
5 通信・情報設備						<b>2.0</b>	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>2.9</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高 事務所3.5m以上、店舗3.9m以上		3.5	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			2.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	高さ、壁面位置や形状、色彩を周辺の風景にバランスよく調和させた。		<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>1.0</b>	0.20	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.51		<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水	節水型便器+節水コマの採用。		<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル床シート、タイルカーペット、岩綿吸音板		5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上りが容易に分別可能(LGS下地+石膏ボード仕上げ)		5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の対象物質を含有しない建材種別が4つ以上ある。		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	LCCO2排出率が59%以下		<b>4.6</b>	0.33	-	-	<b>4.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止	燃焼器具を使用しておらず外部へ大気汚染物質を発生しない。		<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	周辺の地域と比較して十分な駐車場台数を確保している。		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害ガイドラインチェックリストの過半以上満足させ、広告物照明はなし。		5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	